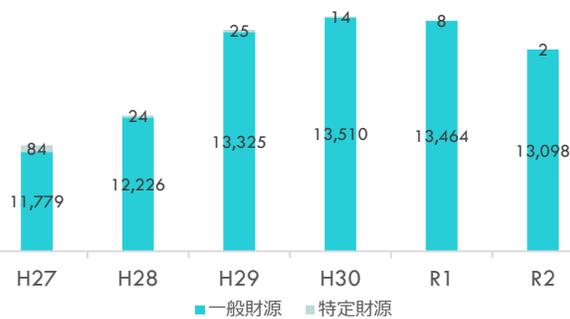
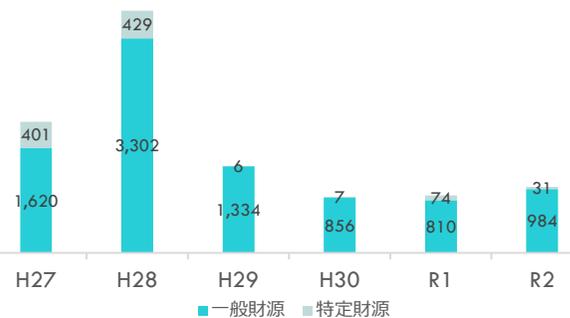


社会教育課

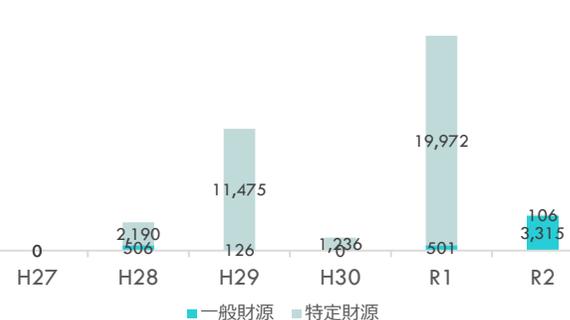
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



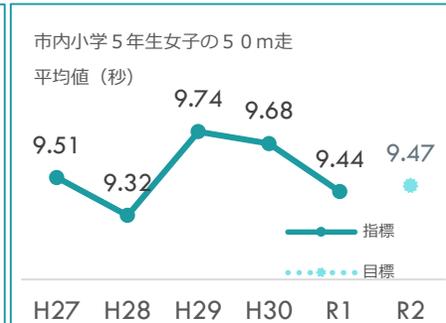
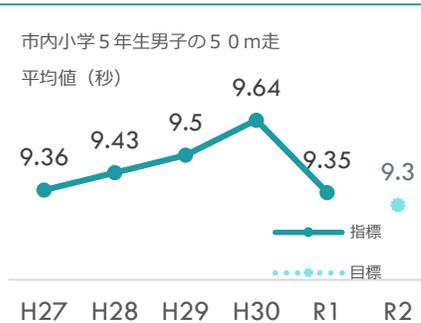
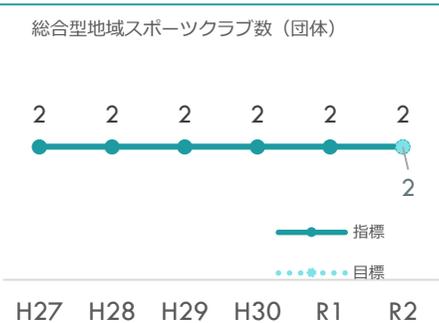
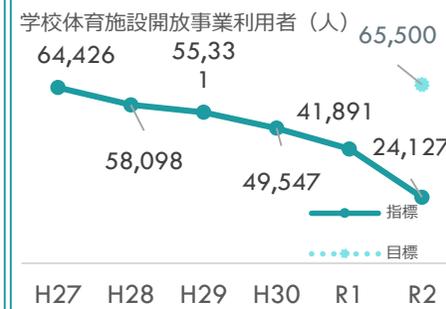
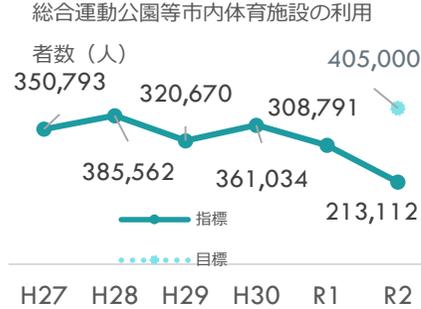
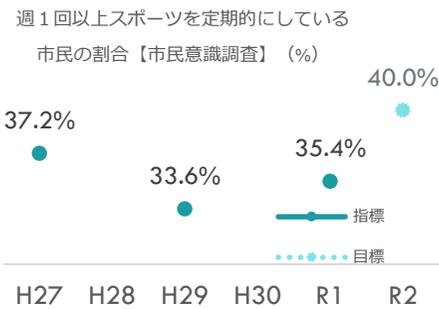
普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

運動公園をはじめ、市内の体育施設では、多くの市民がスポーツを楽しんでいます。市民の嗜好やライフスタイルの多様化、また高齢化の進展などに伴い、スポーツを通じた健康づくりから本格的な競技スポーツや地域活性化に至るまで、スポーツに対する多様な役割が期待されています。今後は、多様なニーズに対応し、市民誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会への環境づくりが重要になっています。

成果指標



指標の説明・・・

成人の週1回以上のスポーツ実施率を40%から45%以上にすることを目標とし、スポーツ人口を増やすことで生涯スポーツ社会の実現を目指します。

体育施設、学校体育施設の整備の充実やイベントにより、スポーツに親しむ人が増加すると推測できます。幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツにふれる機会を提供する、地域密着型の総合型地域スポーツクラブのさらなる設立に向け、実施種目の増加を図ります。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット(どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム(どれだけの成果が得られたか)
スポーツに触れる機会の創出	スポーツウィーク	テニススクールの実施やスポーツフェスティバル代替イベント(講習会・講演会)	経常的経費	230万円	—	①テニススクール、②武道教室、③「器具を使わない競技力向上と障害予防のトレーニング」体験教室、④「体づくりのためのスポーツ栄養学」講習会、⑤「コーチングの現状と課題を振り返る」講習会、⑥「スポーツ選手のためのトレーニングメンタル：その理論と実践法」講習会	マラソン及びスポーツフェスティバルはコロナ禍で中止したが、代替イベント参加者は①27名②51名③17名④20名⑤10名⑥19人が受講。技術の向上とスポーツへの関心やスポーツに触れる機会の創出することができ今後の活動に役立てられた。
〃	海洋教室	海洋クラブによる海洋教室	臨時的経費	5万円	—	海洋教室13回(173人)の参加し練習を行い、特別海洋教室(瀬戸内市海洋クラブとの交歓会)ではクラブ員9名と指導者6名が参加し、瀬戸内市海洋クラブ員9名との交歓大会が開かれた。	コロナ禍でB&G海洋センター主催の県大会・中国大会が中止になったが、瀬戸内市海洋クラブとの特別教室として参加し、クラブ間の交流も深めるとともに海での教室で技術の向上と海洋スポーツに触れる機会の創出することができた。
老朽施設の改善	老朽施設の改修工事等	・総合運動公園温水プール防水工事や高圧ケーブルの張替え、日生温水プール真空式ヒーター改善工事、体育館トイレの一部洋式化	普通建設事業費	3,223万円	—	総合運動公園温水プール防水改修工事や高圧ケーブル修繕工事の外日生温水プールのボイラー改修工事及び総合運動公園体育館トイレの洋式化など	総合運動公園温水プール防水工事及び高圧ケーブル張替えによる施設の老朽化に対する改修等により安心、安全な運営が図られるようになった。
競技スポーツの推進	スポーツ推進事業	備前市体育協会補助金、スポーツ少年団活動補助金	臨時的経費	294万円	—	備前市体育協会には、日生支部、吉永支部、地区体育振興会7地区や種別13加盟団体、スポーツ少年団18団体(登録人数277人)の登録があった。	人口減やコロナ禍でスポーツ実施人口は減少したが、それぞれの体力や年齢、技術、趣味などスポーツ技術の向上と健康増進を図ることができ、213,112人がスポーツ、レクリエーション活動で体育施設を利用し活動の維持が図られた。
〃	学校開放事業	学校施設を利用したスポーツ活動	経常的経費	82万円	—	小・中学校(15校)24,127人の体育館や運動場の施設を有効活用し各地区のスポーツやレクリエーション活動の場としてスポーツでのストレス解消や健康増進を図るための施設提供ができた。	それぞれの体力や年齢、技術、趣味など、地域でスポーツに親しみ、技術の向上や健康増進を図ることにより、スポーツ、レクリエーション活動に参加することができた。

施策の評価

一次評価者	役職	社会教育課長	市民の日常生活にスポーツが一層取り入れられよう、三種公認陸上競技場の更新、スポーツフェスティバルや各種スポーツイベント等などを通じて、スポーツ実施率の向上に努めましょう。本年度はスポーツ推進計画の更新、オリンピック・パラリンピックの開催によるスポーツ機運の向上による絶好の機会です。スポーツ・レクリエーション大会や各種スポーツイベントを継続して開催し、スポーツを始めるきっかけづくりとなる機会や場所を提供しましょう。基本目標である成人が週1回15分以上スポーツを行う人の割合を高め、生涯スポーツ社会の実現とともにスポーツツーリズムへの取組みにより地域活性化につなげていくことが目標です。
	氏名	波多野 靖成	
二次評価者	役職	教育部長	令和2年度、コロナ禍にあっても各種取組を通じてスポーツに親しむ機会を提供し、今後の各活動につなぐことができるよう貢献を果たした。本施策は、本年度作成の「備前市スポーツ推進計画」に基づき、ライフスタイルに合った生涯スポーツ社会の実現のため、気軽に継続してスポーツを楽しめる環境づくりが重要である。そのためにも、市民の身近な機会を通じて、スポーツ機運の向上に努めていく取組が必要である。また、生涯を通じた健康づくりの推進事業との連携に、進展させていくことも重要である。
	氏名	石原 史章	